

戦前、ニューヨークへ渡った日本人画家たちの実像と作品に迫る！ 移民史研究・美術史研究への新たな切り口を提示——

Japanese Artists who worked in New York City
—Artistic Traces from the 1910s to the 1940s.—

ニューヨークの 日本人画家たち

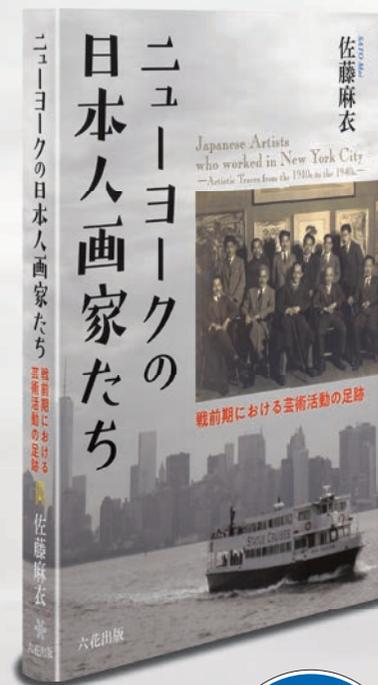
戦前期における芸術活動の足跡

SATO Mai

佐藤麻衣 ● 著

本書は、移民としてニューヨークへ渡った人々の異郷の地での創作活動の意義と作品の背景を、1910年代から30年代を中心に、当時の新聞・雑誌などの活字メディアや絵画・彫刻などの美術作品とその展示を丹念に調査し明らかにする。

とくに各種展覧会の出品目録や図録を網羅的に探索し、それらの作品の分析を通して日本人社会と現地のコミュニティとの関係性に迫る。そこには、在留邦人の社会生活の充実を図ると共に、時代の流れに即応し「反戦・反ファシズムと文化の防衛」を掲げ、日米間の良好な関係を構築しようとした画家たちの意思が浮かび上がる。



2021年
7月刊行!

A5判・上製・カラー口絵付き・270ページ
定価2,800円+税(税込3,080円)
ISBN978-4-86617-152-4

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

★本書を推薦します★

知られざるニューヨーク 美術史を掘り起こす

日比嘉高 (名古屋大学大学院人文学研究科 教授)

既製品の便器に署名をし美術展に出品されたマルセル・デュシャンの《泉》のことは、多くの人が知っているにちがいない。だが、その《泉》が出品されたのと同じ展覧会、1917年のニューヨーク・アンデパンダン展に、5名の日本人美術家が作品を出していたことを、どれくらいの人知っているだろう。佐藤麻衣氏の新著は、埋もれてしまったニューヨークの日本人画家たちの足跡を丹念に掘り起こした労作である。

登場するのは、国吉康雄や石垣栄太郎など限られた美術家を除いて、多くは無名の画家たちである。当然、作品の所在もわからない。佐藤氏は、展覧会の出品目録や邦字新聞、英字新聞の美術欄を博捜し、歴史に埋もれていた彼らの活動と作品を救いだした。展覧会図録などで発見した図版が数多く収録されていること、美術家たちの活動歴が具体的な資料をもとに丹念に追いかけていること、展覧会出品目録や図版出典、引用文献などの文献情報が豊富に提示されていることなど、研究書としての価値は高い。

世界恐慌下における連邦政府の雇用促進政策への参画、日本の軍国主義に対する抗議や反戦活動など、光を当てられた日本人画家たちのエピソードも興味深い。日系移民美術史の新しい幕開けを告げる一冊である。



注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

発行 六花出版 著 佐藤麻衣

ニューヨークの日本人画家たち

戦前期における芸術活動の足跡

定価 ● 三、〇八〇円 (税込)

ISBN978-4-86617-152-4

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

● 弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話 03(3296)8787

Fax 03(3296)8788

電子メール info@rikka-press.jp

はじめに

序章 ニューヨークの日本語新聞の変遷

第1章 日本語新聞に見る石垣栄太郎の活動

- 1 画歴の空白期
- 2 文芸活動の動機
- 3 読書経験と文芸活動
- 4 第一次世界大戦の影響
- 5 社会主義への傾倒
- 6 創作の転換期
- 7 文芸活動から社会派リアリズムの画家に

第2章 紐育日本美術協会と画彫会 —1910年代から1920年代の邦人美術展覧会—

- 1 1910年代の日本人の芸術活動
- 2 紐育日本美術協会の展覧会
- 3 アメリカでの日本人の芸術活動
- 4 日本人画会と画彫会の発足
- 5 画彫会主催第1回邦人美術展覧会
- 6 創成期の邦人美術展覧会



石垣栄太郎・綾子肖像



古田土雅堂《茸狩 (Take Gari)》1917年

第3章 独立美術家協会とサロンズ・オブ・アメリカの展覧会 —1920年代のアメリカ美術界と日本人画家—

- 1 1920年代のアメリカ美術界
- 2 初期の独立美術家協会の展覧会
- 3 日本人画家の作品と前衛美術の影響
- 4 アッシュ・カン・スクールと日本人画家の作品
- 5 日本人画家の特色
- 6 アメリカ美術界での日本人画家の位置

第4章 1927年の紐育新報社主催の邦人美術展覧会

- 1 紐育新報社主催の邦人美術展覧会
- 2 日本人の作品に表れた西洋化
- 3 紐育新報社主催の展覧会の様相
- 4 招待会と美術展評
- 5 研究会の発足

第5章 1935年と1936年の紐育新報社後援の邦人美術展覧会 —芸術活動と日米外交政策—

- 1 1930年代、世界恐慌の始まり
- 2 世界恐慌と日本人画家



中川菊太《壊れたロマンス (Broken Romance)》1931年頃

- 3 1935年の紐育新報社後援の邦人美術展覧会
- 4 1930年代の日米外交
- 5 1936年の展覧会と二世画家への期待
- 6 1936年以降の美術活動

第6章 世界恐慌期の日本人画家 —ニューディール政策とリベラルな美術家の活動—

- 1 世界恐慌期の芸術家の活動
- 2 ジョン・リード・クラブと日本人画家
- 3 世界恐慌と不況政策
- 4 アメリカ美術家会議
- 5 ニューヨーク市主催の日本人画家のグループ展
- 6 日本人画家の反戦活動

終章 日米開戦と日本人画家

資料

展覧会出品目録／図版出典／引用文献／主要参考文献／初出一覧／英文要旨

おわりに

著者紹介

佐藤麻衣 (さとう・まい)

東京都出身
相模女子大学学芸学部卒業
昭和女子大学大学院文学研究科博士後期課程修了

京都女子大学で博士号(文学)を取得
日本近代文学、移民史、アメリカ研究が専門
主要業績に「永井荷風と雑誌『太西洋』—「夜の女」の初出をめぐる〔付〕『太西洋』第1号-第3号目次」『日本近代文学』(第76集、2007年)、『「紐育新報」と邦人美術展覧会—角田柳作のジャパニーズ・カルチャー・センターとの関わり」河原典史・日比嘉高編『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ』(クロスカルチャー出版、2016年)